



石井病院

じんけいクリニック

Now Vol.139

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2019.10

## 医療法人社団 仁恵会 令和元年度「永年勤続表彰」を行いました

仁恵会グループでは、永年勤続表彰制度を設け、勤続10年、20年に達する正職員を対象に、永年にわたる貢献・功績に感謝し、賞状並びに記念品を贈呈しています。

この度、9月2日（月）の全体朝礼後、令和元年度「永年勤続表彰式」を挙行し、勤続20年を迎えた職員1名、勤続10年を迎えた職員9名の計10名が表彰され、石井院長との記念撮影を行いました。



## ● 永年勤続職員の方々より、一言メッセージを頂戴しました。

<p>① <b>斧淵 裕子</b>（在宅ケアセンター）</p> <p>永年勤続表彰を頂き、ありがとうございました。この10年間、周囲の方々に支えられ、ここまで続けて来られたと感謝しています。これからも、より良いデイケアにして行けるよう努力し、新しいことにも取り組んでいきたいと思っています。</p>		<p>後列左から</p> <p>① 斧淵 裕子 介護福祉士 ② 山本 絵理 事務職員 ③ 石本 由季子 事務職員 ④ 酒見 俊子 社会福祉士 ⑤ 緒方 マキ 看護師 ⑥ 小谷 研二 臨床工学技士</p> <p>前列左から</p> <p>⑦ 宮垣 都 看護補助者 ⑧ 伊藤 和美 介護福祉士 石井 洋光 理事長・院長 ⑨ 中谷 真美 医局秘書 ⑩ 陰山 裕史 理学療法士</p> <p>欠席</p>
<p>② <b>山本 絵理</b>（医事課）</p> <p>この度は、永年勤続表彰を頂き、ありがとうございました。医事職員として10年頑張れたのも、先生方、諸先輩方や周囲の方々に助けられ、働き続けることが出来ました。これからも初心を忘れず、今後も頑張りたいと思います。</p>	<p>③ <b>石本 由季子</b>（健診センター）</p> <p>このたびは、永年勤続の表彰をいただきありがとうございます。医療系で働いたことのない私が、ここまで永くお勤めをさせていただいたのは、院長先生をはじめ、各関連部署の方々のおかげです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。</p>	<p>④ <b>酒見 俊子</b>（医療連携相談室）</p> <p>永年勤続表彰をして頂きありがとうございました。院長先生はじめ同僚や周囲の方に助けて頂いたおかげで、働き続ける事が出来たと思います。これからは初心を忘れず患者に寄り添った支援が出来るように頑張りたいと思います。</p>
<p>⑤ <b>緒方 マキ</b>（3F透析室）</p> <p>この度は、永年勤続の表彰を頂きありがとうございました。入職して10年、振り返ればあっという間のような気がしますが、周囲の方々に助けて頂きながら、何とか働き続ける事ができ、感謝の思い一杯です。これからは安全第一に頑張りたいと思います。</p>	<p>⑥ <b>小谷 研二</b>（情報システム管理室）</p> <p>この度は永年勤続表彰をして頂きありがとうございました。先日は、明石公衆衛生協会からも表彰をして頂きました。20年という歳月はあっという間に過ぎ去ってしまった様に感じられます。今日の日をまた新たな出発点としてがんばっていききたいと思います。</p>	<p>⑦ <b>宮垣 都</b>（4F病棟）</p> <p>この度は、永年勤続表彰を頂きありがとうございました。入職後、何も分からない私に皆様からたくさん教えて頂き、支えられてパート、常勤と今日まで勤める事ができ、感謝の気持ち一杯です。これからは感謝、初心を忘れず前向きに頑張りたいと思います。</p>
<p>⑧ <b>伊藤 和美</b>（在宅ケアセンター）</p> <p>永年勤続表彰をして頂きありがとうございました。入職してから気づけば10年という月日が流れ、あっという間だったように思います。日々学ぶことも多く、ご利用者様が楽しみにして来ていただけるように、これからは努めていきたいと思っています。</p>	<p>⑨ <b>中谷 真美</b>（仁恵会本部）</p> <p>パートから正職員になり、早10年が経ちました。その間、周囲の皆様を支えられて経験を積み、仕事の幅を増やすことができました。今後も、多くの方に石井病院の良さを知って頂くため、広報活動に取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。</p>	<p>⑩ <b>陰山 裕史</b>（リハビリテーション科）</p> <p>この度は永年勤続表彰を頂きありがとうございました。この10年という時間を振り返ると、あっという間に過ぎ去ったように感じられます。ここまで歩いて来ることができたのは、多くの方の支えがあったことからです。これからも初心を忘れず自己啓発に努め、地域医療に貢献していけるよう頑張りたいと思います。</p>



## じんけいクリニック

### 続発性副甲状腺機能亢進症 完全コントロールの時代へ

富士君、君がいつも診ている患者さんではないんだけど、外来透析患者さん100人の定期内服処方、書いておいてくれないか。①②③④⑤～⑩do14日分ってな。深く考えず、書けばいいんだよ、書けば。

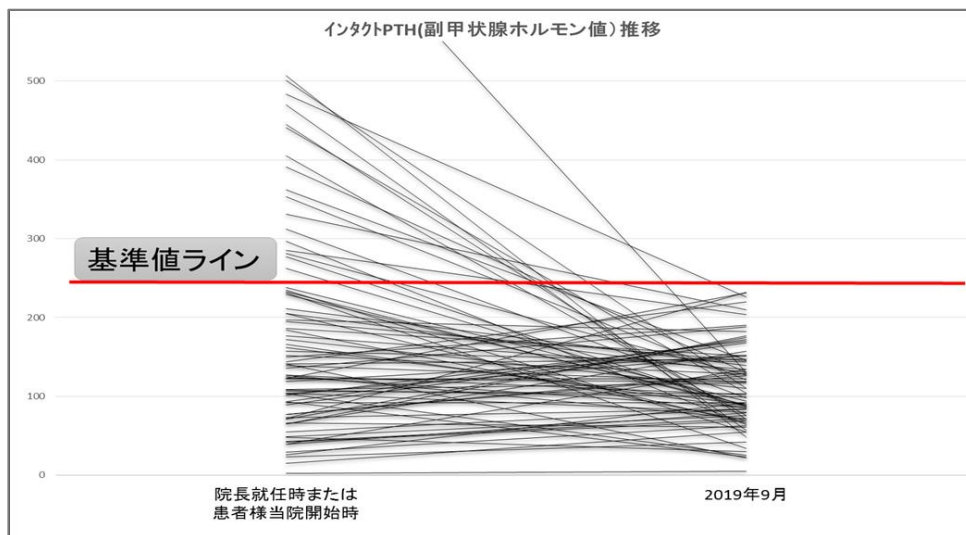
今から28年前、医師となり2年目、弘前大学医学部泌尿器科の医局員として鷹揚郷腎研究所青森病院で透析患者さんの診療には全く携わっていなかった頃、当時の院長先生からのひとこまである。

富士君、透析患者さん300人のカルシウム、リン、副甲状腺ホルモンのコントロールを一人だけで熱心にやっているようだけど、あっちこっち痛いのはどうせ良くなるわけないよ、そんなことしても無駄だぜ。

今から26年前、医師となり4年目、鷹揚郷腎研究所弘前病院で、目の前の患者さんにいい加減な医療はしたくないんだと孤軍奮闘していた頃、当時の院長先生からのひとこまである。

若い頃、透析患者さんに真摯に立ち向かわない不誠実な態度や診療を、自分の故郷である青森県で垣間見たこと、そしてその時の無念さが、今の小生の泌尿器科医師としての根幹に深く関与していることは間違いない。

腎臓は、生体の細胞外液中イオン化カルシウム濃度を生理的範囲に保つ精緻なシステムにおいて中心的役割を果たし、腎機能が末期的となった透析患者さんにおいては副甲状腺が長期的かつ持続的に刺激され、続発的に副甲状腺機能亢進症の病態が必然的に生じること、人類は永い間この副甲状腺機能亢進症のコントロールに難渋してきたが、2008年、カルシウム受容体作動薬；レグパラ（商品名）、ならびに2017年、注射剤のパーサビブ（商品名）が発売され、じんけいクリニックにおいては2018年2月の時点で全透析患者さんでの副甲状腺ホルモンガイドライン達成率は97%に達したこと、近い将来100%が見込まれること、を2018年3月の本稿で記載させていただいた。あれから約1年半経過した先月、じんけいクリニックでの全透析患者さんの副甲状腺ホルモン値は、下記のグラフに示す通り、全例においてガイドラインの240pg/ml以下であった（達成率100%）。小生が医師となり30年目、初めてたどり着いた至極の世界であった。



ラグビーで、『前に走るスピードは足の速さだが、後ろへ戻るスピードは意識である』と言われる。透析患者さんの副甲状腺ホルモン値を完璧にコントロールしたことの意義は、意識のない人にはわからないであろう。しかしそれでも、じんけいクリニックでは当たり前前の医療を当たり前前に遂行するじんけいway、守って守って守って守って守る、オーソリティ打倒の医療を継続していく。



じんけいクリニック  
院長  
ふくし よしひこ  
**富士 剛彦**

#### ■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725  
平日 9:00～12:00 14:00～17:00  
土曜 9:00～12:00  
担当 酒見 古門 上野

#### 編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会  
〒673-0881 明石市天文町1-5-11  
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657  
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>